

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

ACクラブ発足後19年が経過した。平成16年度の
新入会員は9名(男3名、女6名)である。

検診項目別にみると男性では消化器と肺の検診者
が75.5%、肺のみ20.6%、女性では消化器と子宮、
乳の検診者が62.2%で昨年度とほぼ同様である。

年齢階級別にみると男性は70歳代前半が最も多
く、60歳代後半、60歳代前半、70歳代後半がこれに
続く。女性は60歳代後半が最も多く、60歳代前半が
これに続く。会員全体では72.1%が60歳以上であ
る。

付加検診の利用者は226名で、昨年度と変わらず。

オプション項目であるPSAによる前立腺スク
リーニング検査の受診者は80名、精検の対象となる
PSA値8.0ug/mlを越えるものはみられなかった。
同じくオプション項目骨粗鬆症予防検査受診者は14
名。

本年度の検診では大腸がん1名が発見された。

消化器がん検診

平成16年度に、消化器がん検診として胃X線また
は内視鏡を受診したのは223名(男125名、女98名)
で162名(73%)は異常なしで、本年も胃がんの発見
はなかった。

腹部超音波検査を受けたのは289名(男162名、女
127名)で、肝臓・胆のう・膵臓・腎臓のがんはみら
れなかった。

大腸がん検診の便潜血検査をうけた287名(男160
名、女127名)で、便潜血陽性は14名(4.8%)あり、
うち二次精密検査を受けた11名から大腸がん1例と
大腸ポリープ4例が発見された。

昭和51年に“神奈川から胃と肺がんをなくす会”
として発足してから30年、当時より会員の絶対数は
殆んど変わっていない。が発足後5年間に亘る当時の
会員は現在74名であり他は当然その後の入会員かも
しくは入れ替っての会員ということになる。発足当
時この方法が理想的な個人検診システムとして本会
員が飛躍的に増加していくのを多少は期待したが、
しかし、個人検診と銘打っている限り受診者個人個
人の顔や背景が判っていることがその点では組織
が巨大化しなかったのはむしろ会を特徴づけたとも
云える。CTの導入以来、肺野型肺がんの発見には
他に方法はないと考えられて肺がん検診の受診者
にはCT検査を必須としている。従って、病期の進ん
だ肺がんは発見されていない。喀痰細胞診ではクラ
スA0.3%、再検査か追跡かで論議の的となってい
たクラスCは激減している。

肺がん検診

昭和51年に“神奈川から胃と肺のがんをなくす会”
として発足してから30年、当時より会員の絶対数は

殆んど変わっていない。が、発足後5年間に亘る当時
の会員は現在74名であり他は当然その後の入会員か
もしくは入れ替っての会員ということになる。発足
当時この方法が理想的な個人検診システムとして本
会員が飛躍的に増加していくのを多少は期待した
が、しかし、個人検診と銘打っている限り受診者個
人個人の顔や背景が判っていることがその点では組
織が巨大化しなかったのはむしろ会を特徴づけたと
も云える。CTの導入以来、肺野型肺がんの発見に
は他に方法はないと考えて肺がん検診の受診者には
CT検査を必須としていた。従って病期の進んだ肺
がんは発見されていない。喀痰細胞診ではクラスA
0.3%、再検査か追跡かで論議の的となっていたク
ラスCは激減している。

乳がん検診

初回受診者は5名、再診者は123名、精検及び半年
以内の再検者は2名である。乳がんの発見はなし。

ACクラブ発足時の昭和61年度に初回検診を受け
た94年のうち23名が平成16年度に受診し、そのうち
10名が19年間連続受診している。また18年受診した
人(1年だけ受診できなかった人)は9名であった。
昭和62年度初回受診の81名では、17名が平成16年度
に受診し、うち5名が18年間連続受診している。ま
た1年だけ受診出来なかった人(17年受診)は5名
であった。

ACクラブ発足後19年間の乳がん検診受診者実数
(会員数)は378名で、延観察数2808名、発見乳がん
は11名、がん発見率は0.39%(乳がん数/延観察数)
である。

子宮がん検診

ACクラブ会員数384名のうち女性会員数は165名、
年齢階級別構成では40歳以上が161名で98%を占め、
60歳以下が58名、35.2%、60歳以上が107名、64.8%
であった。

平成16年度の子宮頸がん検診受診者は102名、こ
のうち同時に子宮体がん検診を受診したものは93名
であった。女性会員165名中の頸がん検診受率は
61.8%、体がん検診受診率は56.4%であった。頸が
ん検診受診者で頸部細胞診の結果要精検と判定され
た者0名、細胞診軽度異常で要再検とされた者1名
であったが再検の結果異常は認められず、頸がんも
異形成も検出されなかった。体がん検診についても
要精検者、要再検者はなく、体がん、内膜増殖症共
に検出されなかった。体がん検診受診者のうち超音
波による判定となったもの20名、21.5%が含まれ
る。

その他疾患として子宮頸管ポリープ2名、子宮筋
腫1名が指摘された。卵巣腫瘍の発見はなかった。

関係の集計表は96頁に掲載